

不祥事防止について

今年度も度重なる不祥事の発生により、学校及び学校教育に対する県民の信頼は損なわれています。由々しき事態であると言っても過言ではありません。

このような不祥事を根絶し、県民からの信頼を確保するために、全ての教職員が不祥事がもたらす問題を自らのこととして受け止めなければなりません。また、それとともに、常に教育公務員としての使命と職責を忘れずに、公私の別にかかわらず法令を遵守して行動しなければなりません。



1 飲酒運転の根絶について

昨年12月、県内の教職員が飲酒運転により追突事故を起こし現行犯逮捕されるという事案が発生しました。

飲酒運転は極めて危険で悪質な行為ですが、毎年度、全教職員が「飲酒運転しない」宣言書に自署し提出しているにもかかわらず、未だ根絶に至っていないことから、機会をとらえて繰り返し飲酒運転の再発防止に取り組む必要があります。

「飲酒運転は絶対にしない」自己宣言書について、教職員一人一人の強い自覚と行動を徹底するため、宣言書の様式を右のように改められました。

改められたのは、宣言書の下部の「(家族等)」が自署する欄が設けられたところです。自己宣言の内容を家族等の身近な方に確認してもらうことで、より意識を高めてもらうためです。

不祥事がもたらす問題を、教職員一人一人が自らのこととして受け止められるよう、また、教職員一人一人が飲酒運転は絶対にしないという強い意志を持って、飲酒運転の根絶に向けた行動をとるよう、職員会議や校内研修等の充実をお願いします。

(別紙)

「飲酒運転しない」宣言書

飲酒運転根絶のため、私は、飲酒習慣をセルフチェックしたうえで、次の事項について宣言します。

- 1 飲酒運転は絶対にしない
- 2 運転をしようとする人に酒を勧めない
- 3 飲酒した人に運転させない
- 4 少しでも酒が残っていると感じたら運転しない
- 5 その他私の宣言事項

平成 年 月 日
氏名 _____ 印 _____

【確認者署名欄】

上記、宣言書の内容を確認しました。

(家族等)

(学校長)

【「飲酒運転しない」宣言書(改訂版)】

2 メンタルヘルス・ケアについて

一方、不祥事の背景や原因には、ストレスが大きく関係していると言われています。

そこで、メンタルヘルス・ケアの重要性を理解して、教職員一人一人が働きやすい良好な職場環境になるよう、お互いに意識的に声掛けを行ったり、日常的なコミュニケーションに努めたりする必要があります。

以下のことを参考に、研修の改善・充実に向けて取組を進めていただきたいと思います。

背景・原因	防止対策
ストレスへの適切な対処不足	業務の負担軽減とストレス解消を行う ア 学校全体で ・保護者対応や生徒指導の困難案件について、組織で対処する。 ・休暇が取得しやすい職場づくりを進める。 ・カウンセリングを受けられる体制を整える。 イ 個人で ・疲れたときは休み、自分なりのストレス解消法を身に付ける。
悩みを相談する体制、誰かが予兆に気付く体制が不十分	職場環境の改善を行う ア 互いに相談や声かけ、相互観察ができる環境をつくる。 イ 管理職や先輩教師は、後輩教師に助言指導することを心がける。 (OJT)

(参考:「教職員の不祥事根絶を目指して」H22.3 熊本県教育委員会)

3 「くまもとの教職員像」について

今一度「くまもとの教職員像」を読み返し、子どもたちの成長に大きな影響を及ぼす私たちであることを強く胸に刻みましょう。

くまもとの教職員像

「認め、ほめ、励まし、伸ばす」くまもとの教職員像

平成十七年四月五日
熊本県教育委員会

1 教職員としての基本的資質
教育的愛情と人権感覚
 自らの言動が児童生徒の人格形成に大きな影響を与えることを自覚し、豊かな人権感覚を持って、一人一人に温かく、また公平に接する教職員

使命感と向上心
 教職員としての使命感と情熱を持ち続け、時代の変化から生じる新しい課題にも積極的に対応するため、常に新しい知識を求め、実践に生かす教職員

組織の一員としての自覚
 互いに情報を共有し、協力し合って組織的に課題に対応する教職員

2 教職員としての専門性
児童生徒理解と豊かな心の育成
 児童生徒との信頼関係を培い、一人一人の個性やよさをしっかりと見つけ、自分に対する自信と他者に対する思いやりの心を育む教職員

学習の実践的指導力
 基礎・基本を習得させるための徹底した指導と児童生徒が自ら学び自ら考える力を身に付ける学習を着実に展開し、確かな学力を育む教職員

保護者・地域住民との連携
 保護者・地域住民の大きな期待があることを自覚し、保護者や地域住民と情報を共有し、またそのニーズの把握に努め、互いの信頼関係の中で課題解決に当たる教職員